



1歳6か月からの発達のみやす



※発達には個人差があり、あくまでも目安です。



1歳6か月

2歳



からだ

歩行が安定する	手すりを持って階段をのぼる	走る
	ボールをける	その場でジャンプする



しょくじ

離乳の完了 幼児食へ	奥歯が生えてくる	「いただきます」のあいさつができる
	スプーンを上手に使う	



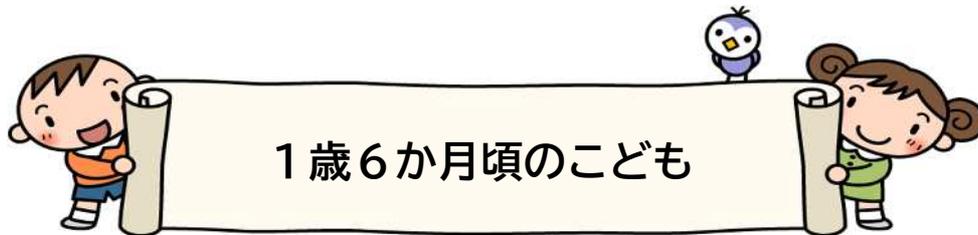
ことば

意味のある言葉を3語以上話す	言葉が増えて2語文になる
	からだの部位がわかる
大人の言うことがある程度理解できる	



こころ

大人のまねをする	自分でやりたい気持ちが強くなる
	イヤイヤ期が始まる



1歳6か月頃のこども



からだの育ち

	1歳6か月 身長 76~85cm 2歳では生まれたときの約1.7倍!
	体重 9~12kg 2歳では生まれたときの約4倍!

成長発達には個人差があります。母子健康手帳に載っている身体発育曲線にそって増えていけばよいでしょう。

口の様子
乳歯は16~20本

視力
0.5~0.6程度。
だんだんと物を立体的に見ることができるようになる。

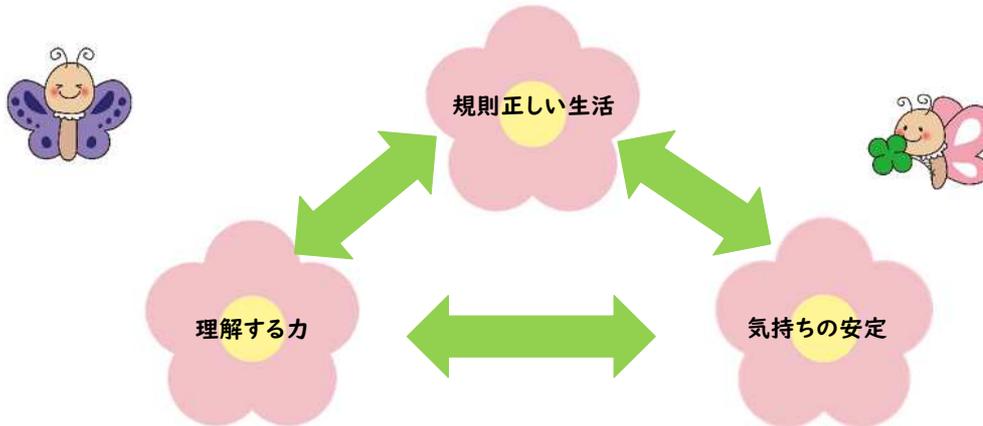
足腰の筋力がついて、
歩き方がスムーズになる。
2歳ごろまでには、
20分程度続けて歩けるように。

手先が器用になり、
積み木をつまんで積んだり、
クレヨンで点や線を描くお絵描きができるようになる。
軽くて握りやすい大きさのボールなら投げられるように。



ことばの育ち

ことばの発達には個人差がありますが、1歳6か月頃には日常生活の中で簡単なことばの意味が理解できて、意味のあることばが数語言えるようになっていきます。2歳頃には「ママ、だっこ」など2語文が話せるようになっていきます。



ことばは、規則正しい生活(運動・食事・睡眠など)、気持ちの安定(人への信頼感や「伝えたい」という気持ち)、そして理解する力が互いに影響しあいながら育ちます。

★規則正しい生活★

規則正しい生活は、ことばの発達の土台となります。

同じ時間に食事や睡眠をとり生活リズムを整え、からだを動かしてしっかりと遊ぶ時間を作りましょう。

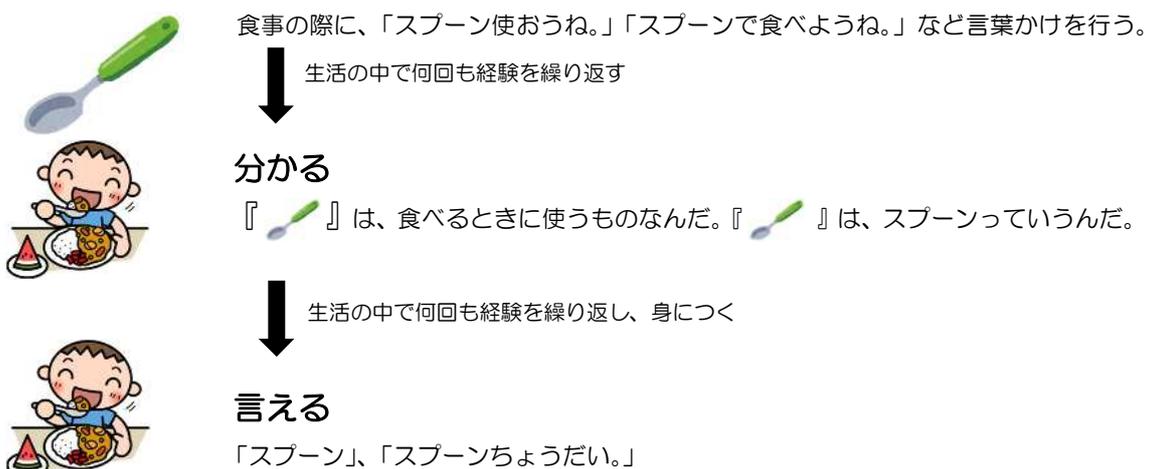
★気持ちの安定★

自分の欲求を分かってくれたり、分かってくれようとしたりする人が一緒にいてくれることが、こどもの気持ちの安定につながり、やる気や意欲、伝えようという気持ちを育みます。一緒に楽しいこと、うれしいことを感じ、安心していられる時間を作りましょう。

★理解する力★

こどもは、同じものを何度も見たり、言葉で聞いたりするうちに「これが〇〇なんだ!」と理解し、やがて自分も言葉として話すようになります。分かるのが先、話せるのは後です。こどもに「言わせる」ことより「聞かせる」ことを意識しましょう。

<例えば…>



どうすればよいの？



大人とのやりとりを通してことばを増やしていこう

1 こどもの言葉を反復しよう

こどもが話したことばを反復すると、こどもは聞いてもらっているという安心感を持つことができます。

間違いを正すようには言わず、「バナナ」を「ナナ」と言っても「そうね、バナナね。」とさり気なく正しい言葉を聞かせてあげましょう。

2 こどもの気持ちを代弁しよう

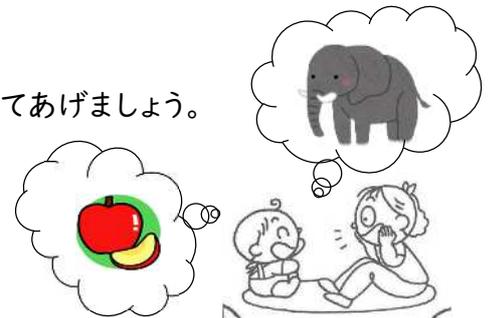
こどもの様子や行動を感じとって「楽しいね」「おいしいね」「くやしいね」などと代弁すると、大人と気持ちを通わすことができ、自分の経験と重ね合わせられます。

3 こどもの言葉を広げよう

「りんご」と言ったら「りんご、赤いね」、「りんご、おいしそうだね」と連想できることばを広げ、つなげていきましょう。「ゾウさん」と言ったら、「あ！ゾウさんがいるわ」、「ゾウさん大きいね」など同じ単語を入れて話しかけるのも良いでしょう。

4 聞き上手になろう

こどもが何かを伝えようと話し始めたら、最後まで聞いてあげましょう。



ことばかけのポイント

1 こどもの顔を見て声をかけよう

2 聞き取りやすい短い言葉で

ことばの意味を伝えるため、「これ、そこにおいて」ではなく、「絵本、机において」など詳しく言いましょう。

また、遊びの音（擬態語・擬声語）を使うことも聞くのが楽しく集中しやすくなります。

（例）・水遊びは、「パシャパシャ」「ジャージャー」

・乗り物は、「カンカン」「ブブー」など



3 こどもが見ているものをことばにしよう

他のことに集中している時に、別のことに気を引くことは難しいので、こどもが関心を向けているものについて話しましょう。車で遊んでいるときや車に対して指差しをしているときは「ブーブーね」、「ブーブー走らせてみようか」などと話しかけたりしましょう。





こころの育ち (いやいや期)



自己主張は
こどもの社会が広がる中で
重要な能力になります!

なぜ起こるの?



からだ

歩行も上手になり、スプーンやフォークを使えるなど手先も器用になってきます。



ことば

ことばの理解や発語も増えてきます。



昨日までできなかったことが今日はできるようになり、分からなかったことばも通じるようになっていきます。

そのため、この頃のこどもは「自分がするんだ!」という気持ちでなんでもやりたがりますが、まだまだうまくできないこともたくさんあります。



自分の要求が受け入れられないときや、うまくいかない時などに、もどかしさを感じ「いやいや」「やだやだ」と言ってだだをこねたり、かんしゃくを起こしたりするのです。

かんしゃくやいやいやに手を焼く場面が増えますが、いやいや期があることは、こどもの「意欲」や「安心」、「信頼」が育っている証拠です!



どうすればよいの?

1 おおらかな気持ちで受け止めましょう

最初の反抗期と呼ばれるこの時期は、なくてはならない成長の過程です。こどものかんしゃくにイライラするのではなく、大人も時々楽しむ感覚で、「あっ、じゃあママはこうするわ!」とやりとりが楽しめれば、こどものこころにもゆとりができて、誘いに応じやすくなってきます。

2 こどもの要求に応じることができない時は、落ち着くまで待ってみましょう

こどものエネルギーの発散を待ってから、別のことに気をそらすなどしてみましょう。

3 こどもの気持ちをことばで拾って返してあげましょう

「くやしいね」「本当はこうしたいの?」と返してあげれば、「こんな時はこう言ったらいいんだ!」とわかるようになり、だんだんとことばで表現できるようになってきます。



具体的ないやいやへの対応

食事のいやいや

1 お子さんのかむ力・飲み込む力に合わせた大きさ、硬さ、形状にしましょう

1～2歳児ごろは、歯が小さく、奥歯が生えそろっていないため、弾力があるもの、硬いもの、ペラペラしたものなどが苦手です。

食べにくさからその食材を嫌うこともあります。

お子さんのかみやすい大きさにしたり、大人より柔らかくしたり、とろみをつけたりすると食べやすくなります。

2 「食べなさい!」と強要しないようにしましょう

毎回のようにならされると食欲がなくなったり、無理して食べさせるとかえってトラウマになり、食べなくなることもあります。

「食事は楽しいもの」という気持ちを育ててあげましょう。

3 大人が「美味しい」と言いながら食べている場面を見せましょう

こどもにとって一番安心できる存在の人が笑顔で食べていると、こどもも自然とその食材に興味をもってくれるかもしれません。大人と同じものが食べたいということも、その気持ちをうまく活かしてみましょう。

4 食事の環境を整えましょう

食事の時間はおもちゃを片づける、テレビは消しておくなどして、食事に集中できる環境をあらかじめ整えておきましょう。

外食で楽しい環境を演出することも、こどもが食べてみようと思うための工夫の一つです。

食べ慣れないものを嫌がるのは自然な反応です。
細かく刻んでまぜる、好きなものと組み合わせる、
少量のみ出すなど、少しずつ慣らしていきましょう！



着替えのいやいや



1 選ぶのはこどもに任せましょう

小さなことでもよいので自分で決めさせてあげましょう。右足から？それとも左足から？といったことでも良いでしょう。強制されるのは嫌だけれど、自分で決めたことは結構やれるものです。

2 やりとりでその気にさせましょう

「上着さんが着てほしいって言っているよ!」「この服を着たらもっと恰好よくなるよ!」という声かけもプライドをくすぐる言い方です。やりとりを楽しみましょう。

買って買って～



1 買い物前の約束を繰り返すことで、我慢できるようになってきます

「買わない約束をする」「買い物へ行く」「我慢して帰宅」という3つの段階を根気よく繰り返しましょう。

2 ことばで拾って返してあげましょう

気持ちのコントロールができず爆発。自分でも何に怒っていたのかわからなくなってしまうことも少なくありません。「おもちゃが欲しくて泣いてたんだね」「おもちゃで遊びたかったんだね」と返してあげれば、すぐにではなくとも、だんだんことばで表現できるようになっていきます。対応が大変なときはその状況や場所を避けることも一つの対処です。

こころの育ちを支えるアタッチメント（愛着）

こどもは、不安な時などに身近なおとなが寄り添い、気持ちを受け止めてもらう経験を繰り返すことで、「アタッチメント（愛着）」（安心の土台）が得られます。

0～2歳ごろのこどもには、おとなが抱っこしてあげることがアタッチメントの形成に最も効果的ですが、微笑んだり、やさしく声をかけてあげることで、こどもは安心感を回復・維持することができるようになります。

自分の気持ちを受け止めてもらったり、共感・言語化してもらったりするなかでアタッチメントがしっかりと得られると、成長してから人も信じたり、自分に自信を持つことができ、様々なことに挑戦したり、他の人を思いやり尊重する感覚を育てたりすることができます。